

平成 29 年 1 月 17 日

南 の 風 2 1 6

南部ミニバスケットボール連盟

会 長 藤原 敬一

215号の続きです。残り2分27秒、桜花5点リード。ここで岐阜女子7番ファーター選手は、外からポストをつくるふりをして、桜花4番ステファニー選手の裏でボールを受け得点する。ナイスプレイ。3点差。ここで桜花4番ステファニー選手は、左45°からのドライブストップターンからフックシュートを見事に決め5点差に広げる。岐阜女子がタイムアウト。直後、岐阜女子4番の石井選手が、クロススクリーンからの3Pをリングにノータッチで決め2点差に詰める。その後、お互いシュートを決め切れず桜花がタイムアウト。残り時間30秒。タイムアウト明け、桜花がバックパスのパイオレーション。岐阜女子は7番ファーター選手と5番藤田選手のピック&ダイブを試みるが得点に繋がらない。続いて、右ローポストでポジションを取った7番ファーター選手にボールが入る。しかし桜花ステファニー選手に守られボールを外に返す。6番石坂選手がジャンプシュートを放つが決まらない。リバウンドは桜花7番栗津選手が掴む。栗津選手にファウルした岐阜女子10番小野選手が5ファウルとなってしまう。岐阜女子はファウルゲームを仕掛ける。残り4秒で岐阜女子が最後のタイムアウト。スローイン後、桜花がボールをキープして試合終了。67対65。両チームの意地と意地とがぶつかり合い、決勝戦に相応しい見事なゲームであった。桜花学園は3冠達成。

大接戦の中で印象に残った選手を紹介します。まずは、桜花4番のステファニー選手VS岐阜女子7番ファーター選手の対決です。ステファニー選手の縦足からのダブルターンやフックシュート、0°からの積極的なドライブからのレイバックシュートは、男子顔負けのプレイでした。また、外角のシュートにも安定感が増しました。次のステージでの活躍を予感させてくれました。

一方ファーター選手には、一段とチームに溶け込んでいた印象を持ちました。ポストから裏へのロブパスに合わせるタイミングや、ピック&ダイブの合わせの精度が格段に上がりました。ステファニー選手との1対1で、ポストアップするフェイクからバックドア取ったプレイは圧巻でした。そして相変わらず、リバウンドの強さは群を抜いていました。彼女も次のステージが楽しみな選手です。

次に、岐阜女子6番の石坂選手の3P4本決めも見事でした。彼女の素晴らしさはボールのもらい足の踏み込みが強く、身体の軸がぶれないのです。そしてボールセットが素早いのです。ミニバスや中学生には大変参考になる打ち方です。何と石坂選手は2年生です。

最後に今後が楽しみな選手を紹介します。2年生の選手です。

最初に桜花のトップガード、9番山本選手です。司令塔が2年生なのですが、ビジョン、パス、ドリブル、シュートどれを取っても超高校級です。またメンタル面もしっかりとしています。並み居る桜花のスター選手に、堂々と指示を出してプレイしていました。岐阜女子のセンター、8番ディヤサン選手（190cm）も楽しみな選手です。今年は7番ファーター選手のバックアップでしたが、来年は当然メインのセンターとして活躍が期待されます。リバウンドは言わずもがな、ポストプレイにも磨きが掛かっていました。岐阜女子の安江ヘッドコーチが「今年一番伸びたのはディヤサン」と言っていました。他にも10番小野選手もフォワードとして有望です。来年も岐阜女子は全国トップレベルです。